令和７年　　７月　２５日

令和６年度　特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
足利市立久野小学校	足利市教育委員会	公立

１．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成１５年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

２．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙実施している

・実施していない

（３）自校における評価

授業の初めの Greeting では、どの学年もあいさつや月日、曜日、天気などを尋ねられると、積極的に答えている児童の姿が見られる。これは、１年時から英会話の学習に取り組んできた成果であり、基本的なコミュニケーション能力の育成や英語に慣れ親しむこと、外国語や外国の文化への興味・関心を高めることに繋がっていると思われる。

また、ゲーム的要素も取り入れながら新しい単語や表現を練習することで、もっと覚えたい、使いたい、学びたいという意欲も高まっているように感じる。また、ＥＡＡは休み時間や清掃の時間にも積極的に児童と関わろうとしており、子どもたちもＥＡＡと挨拶や会話を交わしたり、一緒に遊んだりすることを楽しみにしている。子どもたちが、楽しく英語でコミュニケーションを取る経験を積み重ね、できた喜びを味わわせることによって、抵抗を感じることなく外国語の学習へとつなげていきたい。

（４）学校関係者による評価（学校評価より）

＜保護者アンケート・記述より＞

質問事項　１１－１

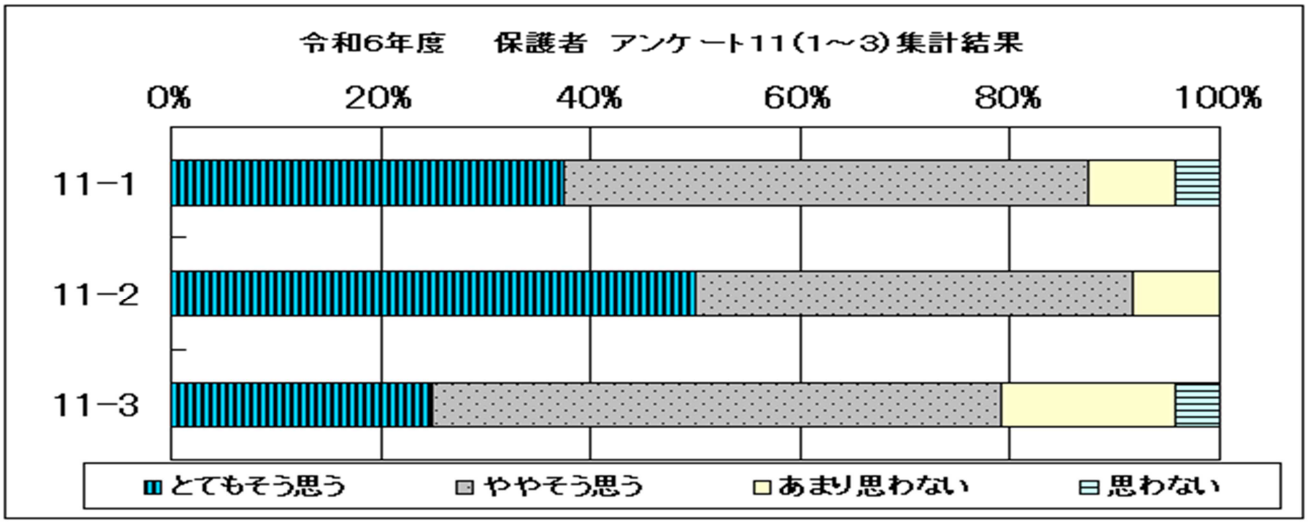
１年生からの英会話学習が、英語によるコミュニケーションの基本的な能力の育成につながっていると思いますか。」

質問事項　１１－２

１年生からの英会話学習の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

質問事項　１１－３

１年生からの英会話学習の実施によって、お子さんの外国語や外国の文化に対する興味・関心が高まっていると思いますか。



・学校教育では、「和訳」する習慣を少なくし、文法の誤りを気にしない環境でスピーキングのトレーニングができる機会を導入する必要があると思う。
・楽しみながら学べれば苦手意識は減るかもしれない。
・もっと学習の時間や頻度を増やしてもらいたい。日常会話を英語にしてほしい。

＜児童アンケート＞

・分からない英語が分かるようになるから楽しい。
・ＥＡＡの授業が楽しい。
・英語が言えたら嬉しい。
・他の国の言葉が話せるようになるから楽しい。
・みんなで英語の歌を歌ったりゲームをしたりするのが楽しい。
・英語でコミュニケーションを取ったりスライドを作ったりするのは楽しい。
・英語は意味が分からないから楽しくない。
・授業で学習することは、すでに知っていることが多いので楽しくない。

３．　実施の効果及び課題

「話すこと」「聞くこと」を中心に進めてきた英会話学習は、英語に慣れ親しむことや英語を聞き取る力、英語でのコミュニケーション力等の向上に一定の効果があった。また、英語への興味・関心も高めることができた。

　これらを、教科化されて「読むこと」「書くこと」も加わった５・６年の外国語の学習にどうつなげ、どう生かすかが課題である。児童は低・中学年と、英語を耳で聞い

て覚え話してきた。低・中学年では「英会話学習や外国語活動の時間は楽しい」と感じている児童も多い。しかし、高学年の中には、読んだり書いたりすることや難易度の高い英文を扱うことに抵抗を感じ、学習に自信を無くしたり消極的になってしまったりしている児童もおり、丁寧な対応や支援の工夫が今後の課題である。

４．課題の改善のための取組の方向性

昨年度まで同様、低学年からの英会話授業は、英会話を身近なものと感じられる良い機会になっていると思う。上学年になるにつれて苦手意識を持たせないように、「楽しい」だけではなく、「わかる」「できる」授業を大切にしていくことが必要だと考えられる。そのために、以下の点を意識して指導を工夫していきたい。

・体験的な活動の中で、「話すこと」「聞くこと」を中心に英会話学習や外国語活動を進め、英語を学ぶ楽しさや英語でコミュニケーションがとれたときの達成感等を十分に味わわせる。
・各単元毎のゴールを明確に提示し、なぜ英語を学ぶのか目的を持って学ばせることで、有用性への実感につなげる。（英語チャレンジＤＡＹ、他教科や修学旅行など行事等との関連づけ。）
・授業時間に限らず、休み時間等においてもＡＬＴやＥＡＡと交流することを通して、外国の生活や文化、英語でのコミュニケーションへの関心を高めさせる。
・音声を聞くと同時に英単語や英文を見せ、聞いたものと見たものや書いたものをリンクさせて、「読むこと」や「書くこと」への抵抗を和らげる。
・昨年度は、６年生が中学校へ行き、中学生や他校の６年生と一緒に英語の授業を受けてきた。中学校での英語の授業をイメージすることができたり、他校の児童生徒と英語で交流することができて、「楽しかった。」と感じた児童もいた。今後も小中連携を一層密にし、９年間を見通した連続した支援をしていくことで、英語の学習に対する抵抗感を減らしたい。